

## 高藪 縁(たかやぶ ゆかり) 日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授

### • 専門分野

気象学。特に雲・対流・降水が主役となる熱帯気象から始め、全球の降水と大気循環・気候・気候変動との関係について、衛星観測データを中心に全球気象データ・気候モデル予測データ等を用いて研究

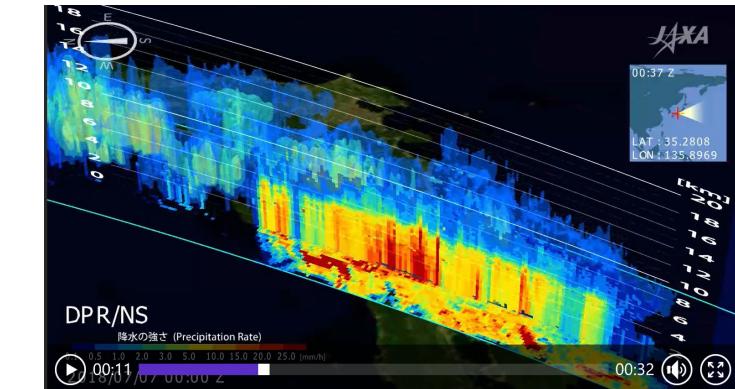
### • FEの存在

専門研究を地球環境や人間社会という大きな課題の中に位置づけることに役立ってきた

### • この10年の成果

[研究] 気候変動・大規模大気循環・大雨の関係について、衛星観測による3D降水レーダ観測の蓄積を活かして新しい理解を得た。また、衛星観測からの大気加熱推定を熱帯循環の仕組みの定量的理解に繋げることができた。

[コミュニティ] 衛星ミッション間、衛星観測と数値モデル間のコミュニティの連携が進んだ。衛星データの産業利用が進んだ。



衛星搭載降水レーダによる  
2018年8月豪雨の観測  
JAXA提供

10年で足りなかったこと、残された課題、将来カバーすべき点、今後どうあるべきか

- 地球環境問題（気候変動、環境汚染、生物多様性等）の社会影響や対策の方法・効果について、多くの住民の方々との共有・議論が十分できていないと感じる。選挙戦の論点にも出てこない。
- 日本の住民の民度は高いのではないかと思うが、地球環境問題への危機感や法整備は欧州などに比べて低く感じる。
- 地球環境問題対策のための身近な市民参加の手段を拡げる。
- 私たちは何をしたらよいのかについて、多様なバックグラウンドの人からアイデアを集める機会を増やす。
- 学術コミュニティは、地球環境問題に取り組むためのラウンドテーブルの戦略立案の議論の場を増やし、社会との意思疎通に力を入れる